

令和6年度 市政アンケートモニター・市民意識調査 調査結果（まとめ）

1 市政アンケートモニター（くるモニ）

(1) 調査項目

- ① 市民の文化芸術の鑑賞・活動状況
- ② 子どもの文化芸術体験を増やすために必要なこと
- ③ 障害者の文化芸術体験を増やすために必要なこと
- ④ 文化芸術のリアルな体験とインターネット鑑賞に対する考え

(2) 調査対象者：市内在住の 18 歳以上の 599 人（公募等で選任したモニター）

(3) 調査期間：令和6年10月8日～21日

2 市政意識調査

(1) 調査項目

- ① 市民の文化芸術の鑑賞・活動の状況
- ② 文化芸術のまちづくりのための取組み

(2) 調査対象者：市内在住の 15 歳以上の 3,245 人（住民基本台帳から無作為抽出）

(3) 調査期間：令和6年6月26日～7月31日

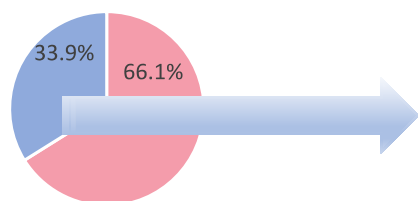
【市政アンケートモニター ①】市民の文化芸術の鑑賞・活動の状況

〈設問〉最近1年間に、以下のような文化芸術の中で、あなたが鑑賞したものはありますか。ただし、TV、CD、DVD、インターネットなど自宅での鑑賞を除きます。（あてはまるものを1つ選んでください）

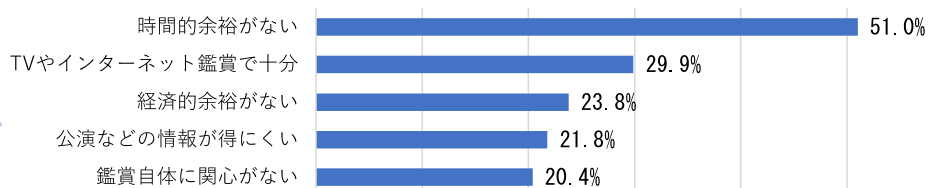
- ✓ 過去1年間に、文化芸術を直接鑑賞したことがあると回答した市民の割合は 66.1%、活動したことがあると回答した市民の割合は 17.1%で、令和3年度に比べて増加しているが、コロナ禍前の水準（令和1年度）には至っていない。
- ✓ 過去1年間に、文化芸術を「鑑賞しなかった」と回答した市民に理由を尋ねたところ、「時間的な余裕がない」が 51.0%と最も割合が高く、次いで「テレビやインターネットによる鑑賞で十分」は 29.9%と、令和3年度の 12.5%に比べて 2.4 倍に増加。

1 年間の直接鑑賞経験

■ ある ■ ない

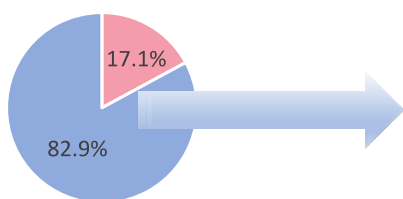


直接鑑賞しなかった理由（主なもの）



1 年間の文化芸術活動経験

■ ある ■ ない



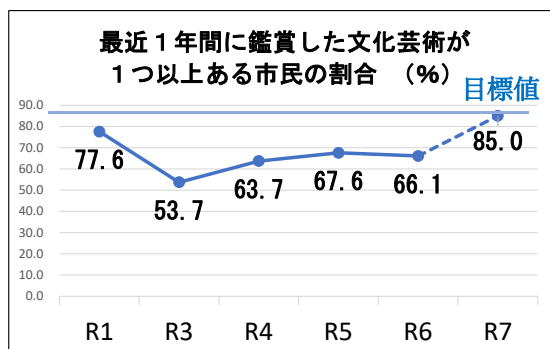
文化芸術活動をしなかった理由（主なもの）



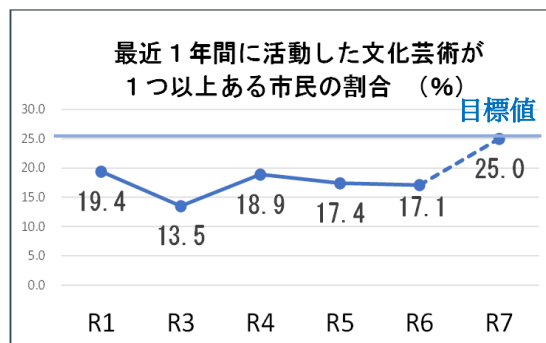
【市政アンケートモニター①参考】市民の文化芸術の鑑賞・活動状況（※経年推移）

- ✓ 鑑賞、活動の割合はいずれも、令和3年度から徐々に回復傾向にあるが、目標値に達するのは厳しい状況。
- ✓ 鑑賞については「テレビ・CD・DVD・インターネットなど自宅での鑑賞を除く」という直接鑑賞のみを尋ねる設問となっており、インターネット配信による間接的鑑賞が普及した現状に合っていないことも、鑑賞割合が伸びていない一因と考えられる。

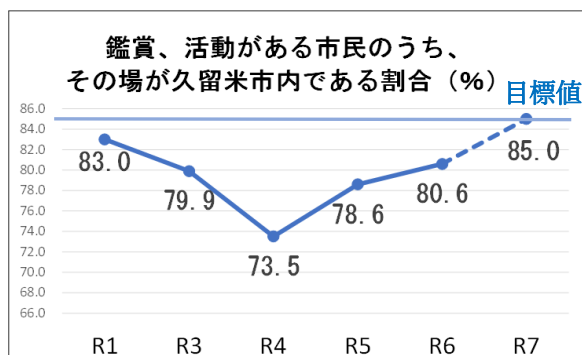
【総括目標 1】



【総括目標 2】



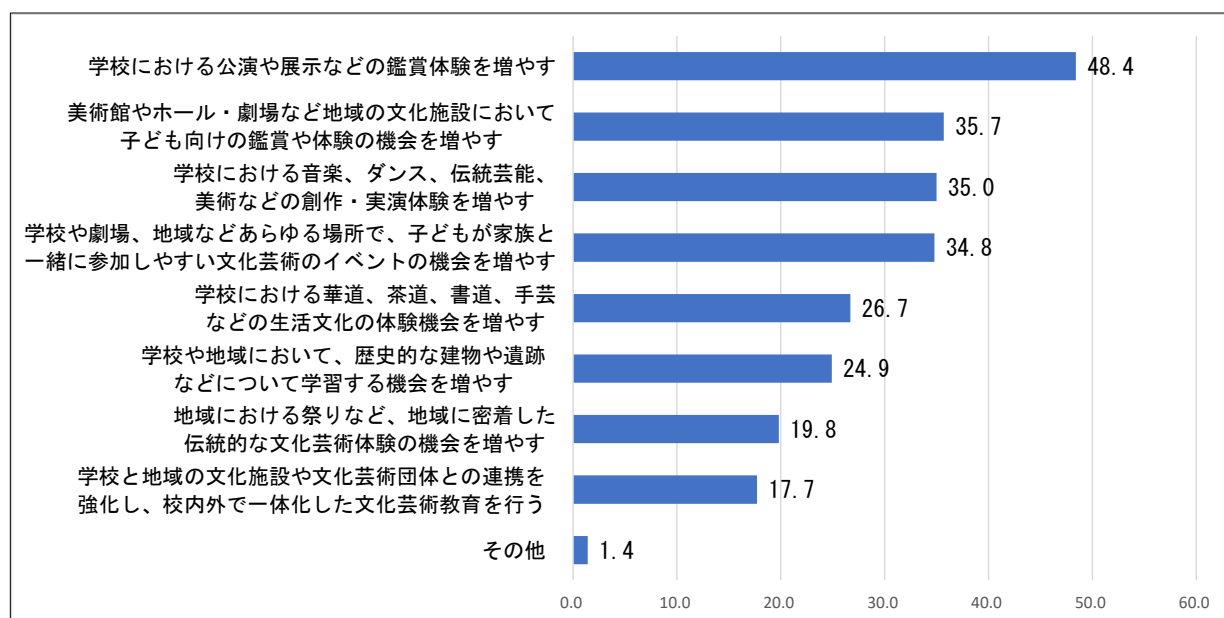
【総括目標 3】



【市政アンケートモニター②】子どもの文化芸術体験を増やすために必要なこと

〈設問〉子どもの文化芸術の鑑賞や、活動体験を増やすために、どのような取り組みが必要だと思いますか。（あてはまるものを3つまで）

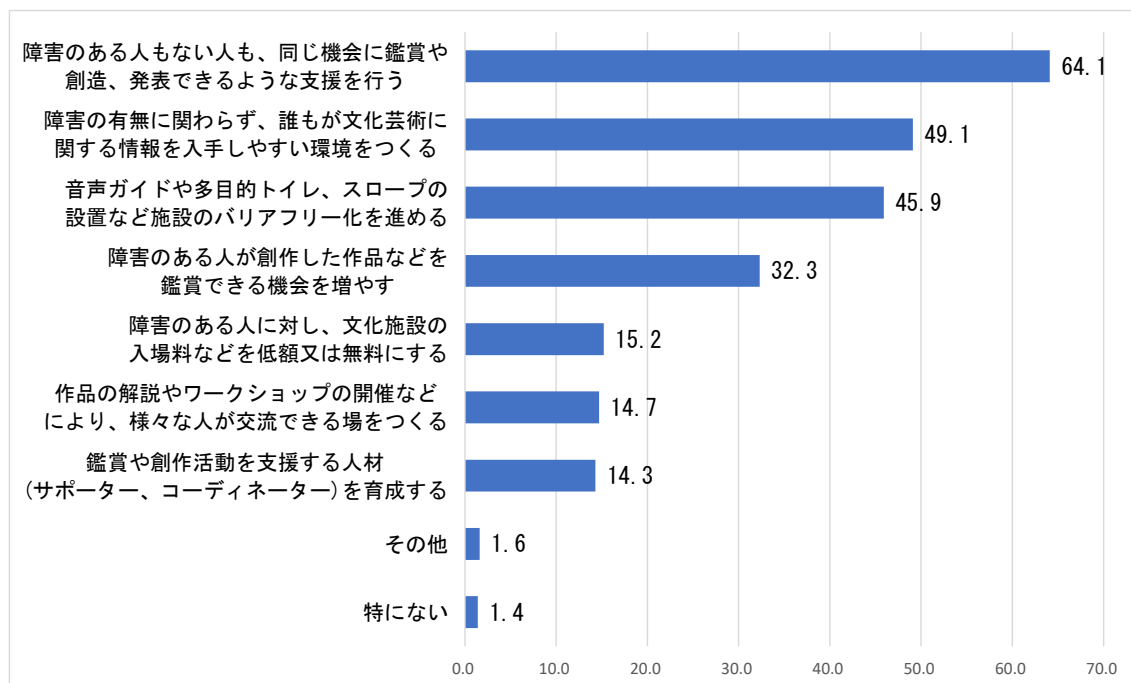
- ✓ 「学校における公演や展示などの鑑賞体験を増やす」が 48.4%と最も高く、「学校や美術館、ホール等における子どもの鑑賞や体験の機会を増やす」、「家族と一緒に参加しやすいイベントの機会を増やす」ことも3割以上の市民が必要と回答。



【市政アンケートモニター③】 障害者の文化芸術体験をふやすために必要なこと

〈設問〉国では、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が平成30年に制定・施行されています。障害のある人が文化芸術の鑑賞や創造、発表などを行うために、どのような取り組みが必要だと思いますか。（あてはまるものを3つまで）

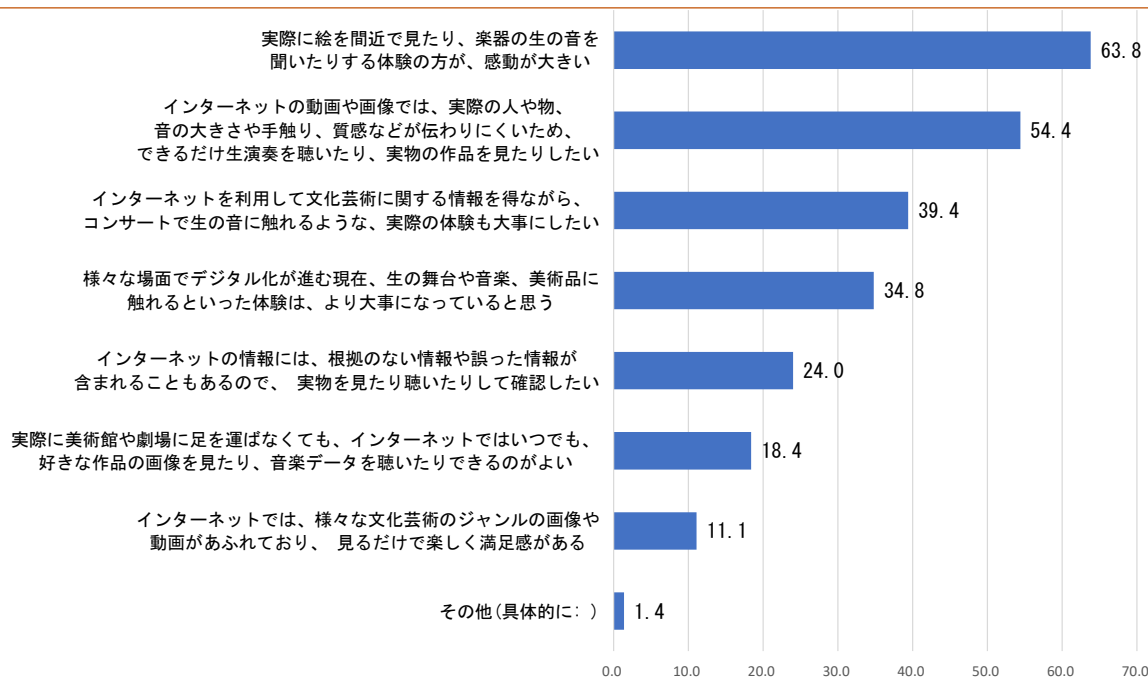
- ✓ 「障害のある人もない人も、同じ機会に鑑賞や創造、発表できる支援」が64.4%と最も高く、あらゆる人が文化芸術を体験できる機会の創出が望まれている。
- ✓ 文化芸術の情報の入手しやすさ、施設のバリアフリー化も5割近くの人が必要と回答。



【市政アンケートモニター④】 文化芸術のリアルな体験とインターネット鑑賞に対する考え

〈設問〉文化芸術について、実際に会場に行き音楽や美術などに触れることと、インターネット配信を利用して鑑賞することについて、あなたの考えに近いものを教えてください。（あてはまるものをいくつでも）

- ✓ 「生の鑑賞の方が、インターネットによる間接的鑑賞よりも感動が大きい」と63.8%の人が回答。
- ✓ 一方で、インターネットの利便性も享受されている状況がうかがえる。

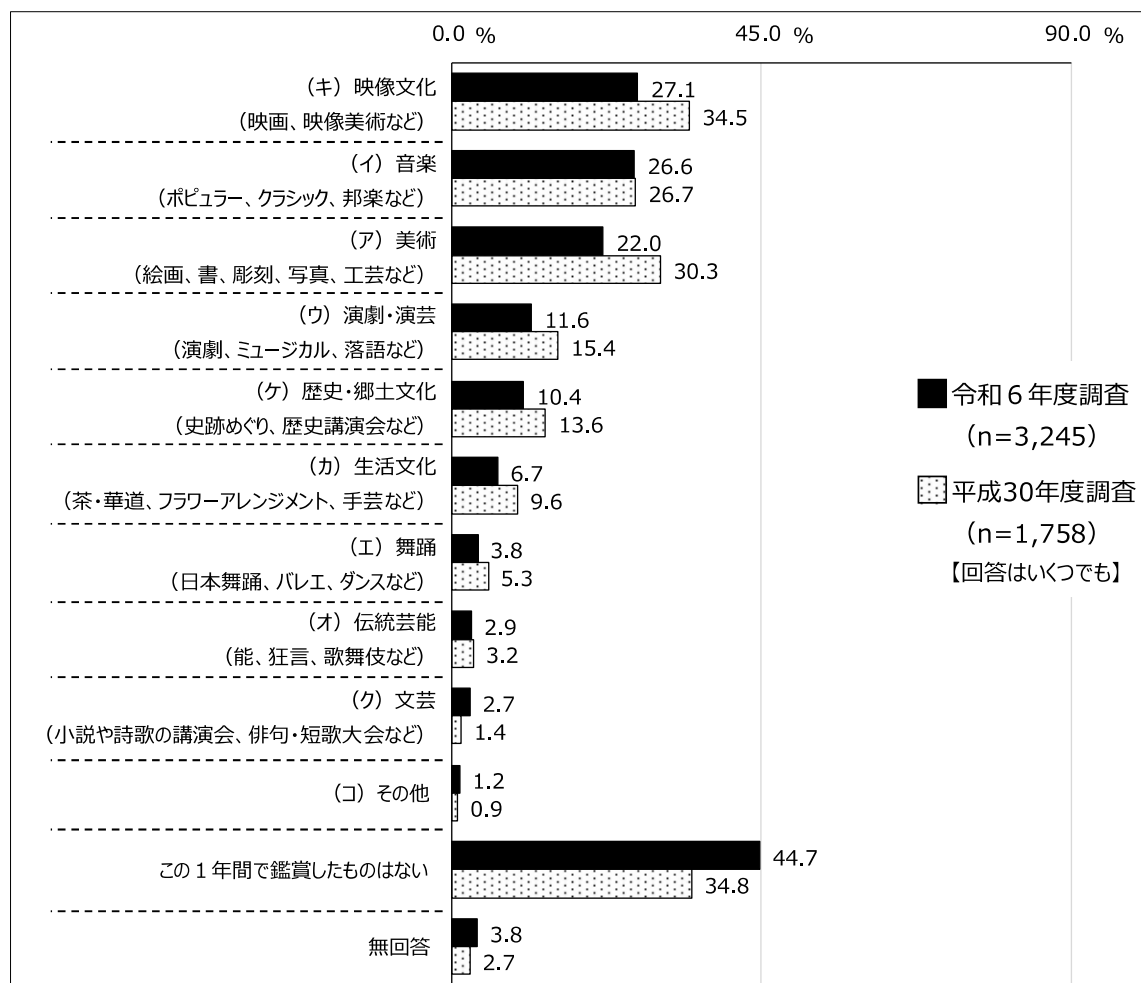


【市民意識調査①】市民の文化芸術の鑑賞・活動状況（※経年比較）

（１）過去１年間の文化芸術の鑑賞状況

〈設問〉次の(ア)～(コ)の中で、あなたがこの１年間に鑑賞したものはありますか。
（テレビ・CD・DVD・インターネットなど自宅での鑑賞を除きます。）

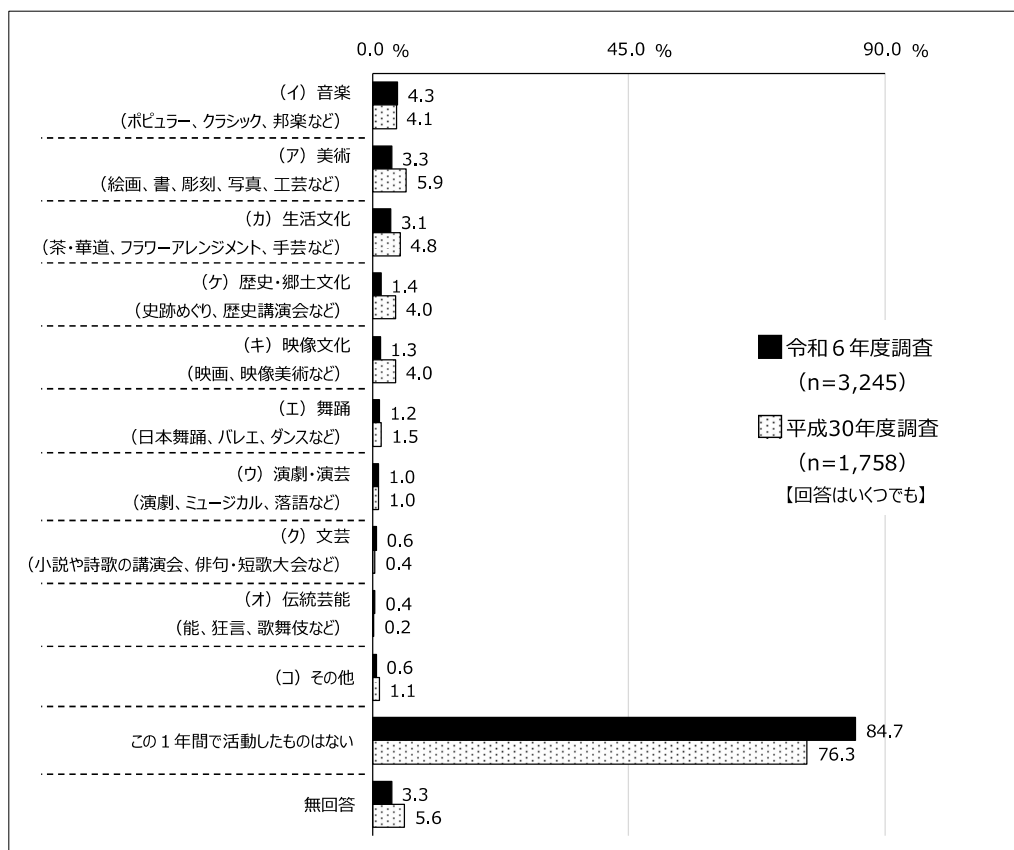
- ✓ この１年間に鑑賞したものは、「映像文化」の割合が27.1%で最も高く、次いで「音楽」が26.6%、「美術」が22.0%。
- ✓ 平成30年度の調査と比較すると上位の分野は変わらないが、鑑賞の割合はほとんどの分野で減少。
- ✓ 「この１年間で鑑賞したものはなし」が44.7%と、平成30年度から9.9ポイント増加。
- ✓ 設問の条件「インターネット配信による間接的な鑑賞を含まない」が、「鑑賞したものはなし」を増加させた一因とも考えられる（←コロナ禍後のネット鑑賞の急速な普及）。



（２）市民の文化芸術の活動状況

〈設問〉次の(ア)～(コ)の中で、あなたがこの１年間に制作や発表、練習など実際に活動したものはありますか。（オンラインの講座やワークショップに参加する、オンラインのイベントを開催するといった活動も含みます。）

- ✓ この１年間に活動したものは、「音楽」「美術」「生活文化」が上位だが、いずれの分野も活動割合が低い。
- ✓ 「この１年間で活動したものはなし」が84.7%と、平成30年度より8.4ポイント増え、全体の8割を超えている。
- ✓ コロナ禍で個人や団体の文化活動に変化や機会の減少が生じ、いまだコロナ禍前の活動状況まで回復していない。



【市民意識調査②】文化・芸術のまちづくりのための取り組み

〈設問〉久留米市が今後、文化芸術によるまちづくりを進める上で、特にどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(あてはまる番号3つまで)

- ✓ 「ホール・美術館などの文化施設での公演や展覧会の充実」が 36.3%と最も高く、平成30年度調査の 27.4%と比較して、8.9 ポイント増加。
- ✓ 「学校や公園など身近な場所で文化芸術に触れることができる機会の提供」35.0%、「子供が文化芸術に親しむ機会の充実」29.4%、「地域の芸能や祭りなどの継承・保存」22.0%への関心も高い。

